特定非営利活動法人
日本雲南聯誼協会
【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13　1 階
Tel. 03-5206-5260 Fax. 03-5206-5261
Email:yunnan@jyfa.org
URL:http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel. +86-871-3311468 Fax. +86-871-3320658

編集・発行人　初鹿野恵蘭
印刷協力　㈱日経印刷　㈱技術評論社

Japan Yunnan Friendship Association

彩雲の南

会報

第23号

発行日　２００７年（平成１９年）３月２５日

外務省「日本ＮＧＯ支援無償資金協力」の支援が決定！

独龍（ドゥーロン）族という、中国５６の民族の中でも珍しい少数民族をご存知でしょうか？

本日はとてもうれしいお知らせがあります。

協会は、外務省の「日本ＮＧＯ支援無償資金協力」の支援を受け、第１６校目となる新たな小学校建設地を、雲南省独龍江郷巴坡小学校に決定しました。

思えば去ること２年半前の２００４年１１月。初鹿野恵蘭理事長、片岡巌顧問、東京本部七田怜が、雲南省でも最奥地と言われる独龍江へ入り、建設候補地として独龍江郷巴坡小学校を視察しました。その際に目にした現地の厳しさは、今でも頭の中から消し去ることができません。以来、なんとしても協会として独龍江に学校を作りたいという願いを抱いておりました。

あれから２年半。現地と協会が待ち望んでいた小学校建設事業が、外務省の支援を受けてついに進められることになったのです。

中国重慶市にて行われた贈与契約式で署名をする
当協会・初鹿野恵蘭理事長と日本総領事館・冨田昌宏総領事

外務省から支援を受けることの意義は、単に協会の学校建設支援事業が新たな小学校建設に着手することを表すに留まりません。協会にとっては、７年間にわたる学校建設支援活動が日本国に認められたことを表し、日中両国にとっても大きな意義―つまり、中国政府さえ手のまわらない、最奥地独龍江地域に日本のＯＤＡ支援が入ることの大きな意味―があると思います。このプロジェクトは、中国に対する日本国家の努力、そして日本人の誠意・温かさを中国の人々に広く知ってもらう絶好のチャンスになるのではないでしょうか。同時に、地域の文化や環境を守りながら進めていく日本の支援・開発方法を、現在急速に開発を進める中国に示すこともできます。（※独龍江地域は天然自然保護地区に認定されており、原始生態系がそのまま残っている、中国国内でも貴重な地域です）

協会は、教育支援活動を通じて「民間の交流」、「民官の交流」に努めてまいりました。これまで、政府にはできない、地域と住民の心に深く根ざした交流を続けてきたと自負しています。他の小学校での建設事業がそうであったように、この独龍江郷巴坡小学校建設プロジェクトでも、事業の始まりが、日本と雲南省の人々の心の交流の新たな始まりを意味しています。

国が協会の柱である教育支援事業にご支援くださることで、私たちの最終目標である「日本と雲南（中国）の友好」に向けての、新たなスタートラインに立てたことを大変うれしく感じるとともに、今後の活動に一層気が引き締まる思いです。

※「日本ＮＧＯ支援無償資金協力」とは、当協会のような日本のＮＧＯが、開発途上国・地域で実施する経済・社会開発プロジェクト及び緊急人道支援プロジェクトに対し外務省が資金協力を行うものです。

資金贈与契約式
初鹿野理事長と冨田総領事が会談
プロジェクトのスタート、そして新たな出会い

２００７年３月６日～９日、「日本ＮＧＯ支援無償資金協力」贈与契約式出席のため、初鹿野恵蘭理事長、北原茂実理事、曹光顧問、東京本部七田怜が、協会としてははじめての訪問地となる、中国は重慶市へと赴きました。今回の重慶訪問は、当協会の雲南省独龍江郷巴坡小学校建設プロジェクトが、重慶日本総領事館の管轄（雲南省には総領事館がありません）となっているからです。

契約式の席上で

契約式は、冨田昌宏総領事の流暢な中国語で、挨拶と今回の巴坡小学校建設事業の概要説明があり、続いて初鹿野理事長から、協会の紹介と今回の事業についての説明、そして日本政府への感謝の意が述べられました。続いて贈与契約書への署名が行われ、総領事と初鹿野理事長の握手と乾杯で契約式は無事に幕を閉じました。

固い握手が交わされました

契約式終了後は、初鹿野理事長をはじめとする協会メンバーで日本総領事館を訪問し、冨田総領事と１時間半にわたり会談を行いました。話題は、協会の活動の紹介に始まり、重慶市の現状、日本のＯＤＡ支援について、さらには医療環境問題にも及びました。特に、現在雲南省での脳神経外科病院設立を目指している北原理事からは、戦略的な医療支援への熱い想いが語られ、冨田総領事も大きな関心を示してくださいました。

最後に冨田総領事から、「今後、なにか協力できることがあればいつでも言ってください」との心強いお言葉をいただき、総領事館を後にしました。また、一行は重慶市政府僑務弁公室を訪問し、新たな関係を築くこともできました。特に、僑務弁公室の黄鋭処長には、重慶市内を案内していただくなど、大変お世話になりました。

今後、巴坡小学校の建設状況の報告も協会会報や協会ウェブサイトを通してつとにお知らせしていきますので、皆さんも楽しみにしていてください。

総領事館での会談の話題は教育から医療までに及びました

巴坡小学校と独龍江地域について

雲南省怒江リス族自治州貢山怒族独龍族自治県独龍江地域には、中国国内でも最も人口が少ない５８００人あまりの独龍族という少数民族が暮しています。高黎貢山を隔てた独龍江地域は外界とほとんど交流がないため、家屋や校舎はひどい状態のまま、子供たちが片道８キロの切り立った川岸の道を通学する様子も見受けられました。今回のプロジェクトでは、これまで１～４年生までしか収容できず、４箇所の校点（分教室）に分かれていた巴坡小学校を、宿舎を含め校舎を建設し、１カ所にまとめて「完小」（１～６年生を収容する本校のこと）とします。このプロジェクトが完成すると、これまで遠く離れた本校へ通わなくてはならず、退学に追い込まれていた約５０名の子供たち、それに加えて現地の児童８０名が巴坡小学校で勉強を続けることができるようになります。

	現在の状況	改築後の状況
民族	独龍（ドゥーロン）族	
児童数	４１名 ３分教室合計は８２名	１３０名 （１～６年生）
教職員数	７名（他３分教室含む）	１２名
通学形式	半寄宿制	寄宿制

初鹿野理事長、茅ヶ崎の中学校で講演会

元気いっぱいの生徒たち

講演の様子

未来の国際社会を担う若者たちへメッセージ

２００７年２月２日、茅ヶ崎市立中島中学校の飯田芳之先生からの依頼を受け、初鹿野恵蘭理事長が、茅ヶ崎市内の中学校で第２回目となる講演会を実施いたしました。当日、体育館に集まったのは中島中学校の一年生１６０名。体育館に入るなり、「ニーハオ！」と出迎えてくれた元気いっぱいの生徒たちに、理事長、スタッフも簡単な中国語を交えながらの自己紹介をしました。

「これが何か分かりますか？」講演が始まると、薄暗い体育館の正面に設置されたスライドに、今にも壊れそうなぼろぼろの小屋が映し出されます。理事長の問いかけに、生徒は用意された三択の中から「牛小屋！」「家！」と答えを選びます。「実はこれは学校なんです」。最も回答の少なかった「学校」が答えと分かり、体育館にはどよめきが起こりました。

協会に届いた１６０通の感想文。スペースの関係でご紹介できないのが残念！

当日使用したスライド

今回講演会を実施したのは、協会が支援活動を行うだけでなく、将来の国際社会を担う日本の子供たちに積極的に国際協力について考えてほしいという思いがあったからです。講演会を行ってまず驚いたことは、皆さんが熱心にメモを取りながら、真剣な顔で話に聞き入っていたことです。講演会前には数ページにも渡る質問もいただき、ボランティア活動への関心の高さに感心しました。

後日、協会宛てに１６０名の中学生が書いた感想文が寄せられました。生徒たちは、海外の貧困地域の事情を知ることにより、自分たちの生活がどれだけ恵まれているかに気がついたようです。物を大事にしよう、一生懸命勉強しようという感想が多く綴られていました。

また国際協力活動に興味を持った生徒も多く、「自分に何ができますか？」「どんなボランティア活動ができますか？」といった質問も寄せられました。中には「将来は社会の役に立つ人間になりたい」と将来の希望を語る生徒もいました。講演会を実施したことにより、中学生たちは新しい視野を広げ、自らの頭で考え、社会や自分の将来について模索しはじめたようです。感想文からはどんどんと知識を吸収して学び取ってゆく、若者ならではの柔軟さと力強さが感じられました。若い世代の育成を志す協会にとって、今回の講演会が成果あるものとなったことは言うまでもありません。

今後も協会は日中両国の若い世代の育成に力を注いでゆきたいと思います。

中国雲南省　大自然とともに生きる少数民族の子供たち　第一回　初鹿野恵蘭写真展

■開催期間：２００７年４月１６日（月）～２２日（日）
１０時～１８時（初日１４時より　最終日は１５時まで）
※１６日１３：３０よりオープニングパーティー開催
■会　場：新宿区立区民ギャラリー
■主　催：ＮＰＯ法人 日本・雲南聯誼協会
■後　援：中華人民共和国駐日本国大使館

会場アクセス　※入場無料
ＪＲ・小田急線・京王線「新宿駅」西口から徒歩約１５分
東京メトロ丸の内線「西新宿駅」から徒歩約１０分
都営大江戸線「都庁前駅」から徒歩約５分
新宿西口バスターミナル（１７番乗り場）から乗車し「十二社池の下」下車１分

支援活動の中で拾ったたくさんの美しい笑顔

経済の発展から取り残された、中国雲南省・少数民族貧困地域。

当協会・初鹿野恵蘭理事長が活動を始めて10年、協会発足から６年。自ら中国雲南省の山奥に足を運び、出会ったもの。それは厳しい貧しさの中で必死に生きる人々と、そしてたくさんの心豊かな笑顔でした。未来を担う子供たちの輝く笑顔に触れたとき、自然と切っていたシャッター。その笑顔を皆さんにも伝えたい、そして支援を必要としている現地の貧困について、協会の教育支援活動を知ってもらいたい、そんな思いから、このたび当協会主催による写真展を開催することとなりました。

当日は、沢山の写真のほか、日本の皆さんの善意により建設された、各地小学校の記事が掲載された会報配布や、開校式のＶＴＲなども上映します。大自然とともに生きる、雲南省少数民族の子供たちの笑顔を、見にいらっしゃいませんか？

今回の写真展企画　鈴木肇（協会会員・ボランティア）さんからご挨拶

今回の企画については、前々から初鹿野理事長が雲南の子供たちの現状をより多くの方に知っていただきたいと心にしたためていたもので、昨年秋に東京本部にて行なわれたボランティア会議で決定されました。事務局から写真展開催への応援依頼を受け、１２月初旬顔合わせを含めた最初の打ち合わせを実施。担当者の七田さんから２００７年４月に都内で写真展を開きたいと言われた時にははっきり言って”ん～ん、準備期間が短すぎる”と思いました。私の経験から、写真展は構想準備段階から１年を掛けて入念に進めるものと考えていたからです。しかし私の心配顔をよそに理事長は写真展への思いを熱く語られ、その目の輝きから”やりましょう！”とひとつ返事をしてしまうことに...

写真展開催のＤＭはがきがご覧の会報と共に皆さんのお手元に届くころには、準備も最終段階に入り開催期間中のボランティア応援の打診連絡も始まることと思います。今回の写真展はプロギャラリーを使用したような華やかさやスマートさはないかもしれません。しかし、多くの協会関係者、ボランティアひとりひとりの協力により出来上がったことでテーマである、雲南の子供たちの現状と共に手作りによる写真展のハートフルな暖かさを感じとっていただけるものと思っております。写真展は新宿区民ギャラリーにて一週間開催します。より多くの方に見に来ていただくためにも知人友人にお声を掛けて下さるようお願い致します。

（鈴木肇）

新しい年に向け、結束深まるチャリティ忘年会

２００６年１２月１６日（土）、協会法人会員で雲南省出身の市川里福さん経営の、東京阿佐ヶ谷「福来酒家」にて、日本・雲南聯誼協会２００６年チャリティー忘年会を開催しました。例年のホテル会場での大規模な忘年会とは少し趣きを変え、今年はいつも温かくご支援くださる皆さんと、より身近な席でお話をしたいという思いから家庭的な雰囲気の中華レストランでの開催となりました。

当日ご参加いただいたのは、いつも活動に大きな理解を示してくださっている中国大使館一等書記官兼領事倪道軍さん、李放鳴さんはじめ協会役員、会員、支援者、ボランティアを合わせて総勢４３名。設立当初からご支援くださっている方もいれば、初めて参加するという方も多く、嬉しい再会と初顔合わせの連続でした。

忘年会は杉谷隆志専務理事の挨拶から始まり、初鹿野恵蘭理事長、また中国大使館一等書記官兼領事倪道軍さんのご挨拶があり、今年一年を振り返り皆さんに感謝するとともに、来年もまた協力し尽力してゆくことを再確認しました。そして片岡巌顧問の乾杯の音頭とともに、杯が交わされました。

美味しい料理と和やかな談笑で会場全体が盛り上がる中、先日、ＣＤを発売した法人会員ブランニューダンスマーケットの能見広伸さんが素晴らしい歌声を披露してくださいました。優しく力強い歌声に涙を滲ませる方もちらほら。宴もたけなわとなり、皆さんお待ちかねのビンゴゲーム大会が始まりました。雲南省少数民族雑貨など華やかな景品を狙って、「ビンゴ！」「トリプルリーチ！」と大声で叫ぶ声が笑い声と一緒に会場を埋めつくしました。

能見さんの「母」熱唱に会場は大感動！

最後は、村松健児監事から「皆さん、仲良く！」という中締めの挨拶とともに、まだ話の尽きぬ中、無事に閉幕しました。その言葉通りに、今年１年も協会と会員・協力者が、日本と雲南とが仲良く助け合える一年となることをお祈りいたします。

素敵な友情も生まれました

中国大使館一等書記官兼領事
倪道軍さん、李放鳴さん
いつも協会へのご理解とご協力をありがとうございます！

中国大使館倪さんからのご挨拶

ボランティアの民族衣装、お似合いですね！

お料理の味はいかがですか？

初対面もすっかりうちとけたご様子

話題はいつまでも尽きません

ビンゴの賞品プーアル茶を手に

ビンゴ！

ビンゴ大会では、皆さんもの真剣そのもの

【参加ボランティア（敬称略）】
司　会：岡隆史（横断幕作成）、鈴木修一
スタッフ：大塚由子、桂正徳理事、神立めぐみ、遠間菜津子、頓楠、中村有里子理事

ニイハオ！

雲南支部局です

vol. 5

大きく育て！協会支援校の金の卵たち

第５校目
日中天真小学校
フォローアップ
事業

南里支部局長が真剣なまなざしで子供たちの授業を見学

協会では学校を建設して贈るだけが教育支援とは考えていません。その後の運営、学校の現状などつぶさに調査し、子供たちがより良い環境で学べる様に、先生や子供たちとの交流を通して日中友好の教育現場を支えていきます。

今回、支援校全校にカメラを配布して、子供たちが撮影した学校生活、家庭生活の写真展を行う企画が立てられました。昆明から車で２時間余の、協会支援第５校目日中天真小学校へのカメラの引渡しに昆明在住の古木会員と一緒に参加しました。

協会が贈った校舎は３階建てで、１階に１～３年生、２階に４～６年生の教室があり、３階には教員室、校長室と整然と建てられていました。児童は各学年１クラス（約３０人）ずつですので、全校では１８４人いて、その内遠方からの児童６０人が宿舎に収容されています。

教室を覗くと、３年生から英語の授業があり、昆明に近いこともあって比較的進んだ教育を受けている印象でした。朝早くの訪問で１１時過ぎにはお暇をするところ、校長、教頭から村の書記まで来られて引き止められ、学校食堂で先生方と一緒にお昼をいただきました。昆明の水源地でもあるこの地域は魚が豊富で、獲れたての鯉の空揚げ、大根、苦菜など自家製の自然食が口に合い、白酒まで振舞われました。最後は「夜まで居てください！」との先生たちの誘いを固辞して帰途についたのでした。個人メニュー中心の日本とは異なり、中国の食事は大勢でするもので、それが又交際の基本でもありお断りできないのもご理解下さい。決して豪華でなくても、暖かいもてなしに心も開き、今後の連絡、協力関係も期待できる所です。

これから支援校も増える中、昆明在住会員或いは日本の会員諸氏が気軽な形での学校訪問、交流の機会が増えて欲しいと願う一日でした。

（雲南支部局長　南里稔）

会員が初挑戦！全員一丸となっての会報発送作業

２００７年１月１７日（水）、会報「彩雲の南」最新号が完成し、東京事務局にて発行作業が行われました。

いつもはボランティアにお願いしている作業ですが、今回は都合がつかず、急遽、協会会員の皆さんに発送作業のお願いをすることとなりました。こうした作業を会員の方にお願いするのは初めてで、どれぐらい集まってくれるだろうと不安もありました。ですが、募集メールを読んだ会員からはすぐに「手伝うよ」「顔を出すよ」という温かいお返事をいただき、あっという間に定員の６名が集まりました。

初対面とは思えないチームワークの良さが発揮されました

当日、初顔合わせとなる会員６名は、初めての作業にもかかわらず、次々と案を出し合い、賑やかに作業を進めてゆきました。６名の助っ人の力は大変大きく、４時半には全ての作業が完了しました。「いつでも手伝いに来るよ！」作業終了後に皆さんからうれしいお言葉もいただきました。協会の活動がいかに会員によって支えられているのかを改めて痛感し、また今後はもっと会員が自ら参加できる活動の場を増やしてゆきたいと決意する一日でした。突然の召集にもかかわらず、快く集まってくださった皆さん、またご一考くださった会員の皆さん、ありがとうございました！

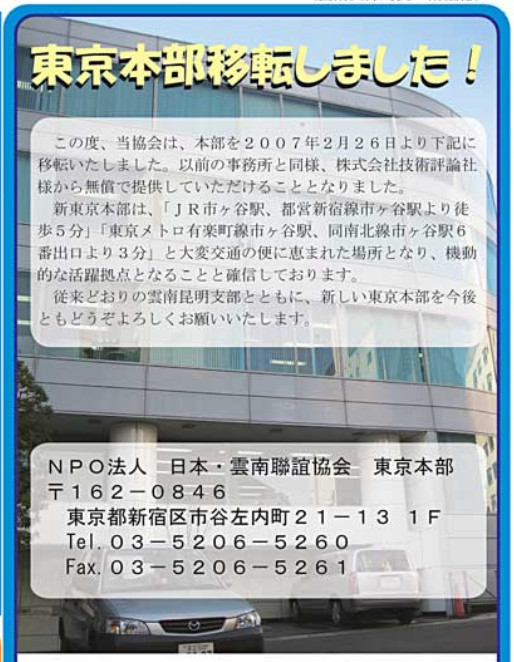
【ご参加くださった皆さん（敬称略）】
麻野久美、安達武史、小出和夫、小山功、近藤和馬（以上会員）、陸欣妍（会員・ボランティア）

東京本部移転しました！

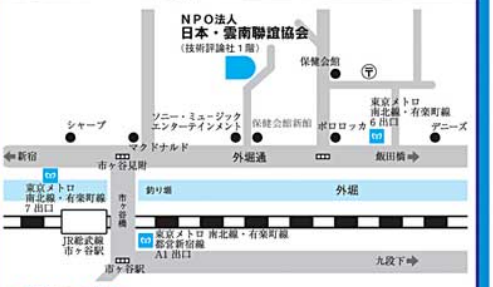
この度、当協会は、本部を２００７年２月２６日より下記に移転いたしました。以前の事務所と同様、株式会社技術評論社様から無償で提供していただけることとなりました。

新東京本部は、「ＪＲ市ヶ谷駅、都営新宿線市ヶ谷駅より徒歩５分」「東京メトロ有楽町線市ヶ谷駅、同南北線市ヶ谷駅６番出口より３分」と大変交通の便に恵まれた場所となり、機動的な活躍拠点となることと確信しております。

従来どおりの雲南昆明支部とともに、新しい東京本部を今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



ＮＰＯ法人　日本・雲南聯誼協会　東京本部
〒１６２－０８４６
東京都新宿区市谷左内町２１－１３　１Ｆ
Tel. ０３－５２０６－５２６０
Fax. ０３－５２０６－５２６１



■アクセス方法■
ＪＲ・都営新宿線「市ヶ谷駅」より徒歩５分
東京メトロ有楽町線・南北線「市ヶ谷駅」より徒歩３分
※sony music ビルと保健会館新館の間の小道を入り、坂を上がります。
正面の水色窓・白いビルの１Ｆが協会になります。（玄関は（株）技術評論社と共有になっています）

雲南を彩る25の星たち

連載　第８回
フイ（回）族

真っ白な帽子「　」が回族の象徴

回族は、イスラム教を信仰する民族で、雲南省全域に分布しており、人口は約５２万人。回族は主に交通が便利で生活しやすい地域に住み、集落を形成する。雲南省内に住む回族は殆ど漢語を用い、イスラム教の司祭者と学者の一部はアラビア語も用いている。

彼らは長い間漢族と一緒に生活してきたため、生活習慣も漢族とほぼ同じだが、飲食に関しては、豚肉、そして醜いとされる生き物（ドジョウや蛇など）、自然死した動物を食べてはならない戒律がある。また、アラビア語表記のないレストランでは食事をせず、信仰心が強い人は毎日５回の祈りも欠かさない。

雲南省の回族は服装も漢民族と同じだが、最近では女性がアラビアの習慣を取り入れ、白い頭巾を被ることも。回族の葬儀は水葬や土葬であるが、雲南省では殆ど土葬で、漢族と同じように墓参りも行う。以前、回族同士でない人と結婚してはならないという戒律もあったが、時代の変化につれ、制限は緩やかになってきている。

（雲南支部・林娜）

北原脳神経外科病院は日本・雲南聯誼協会の活動を応援しています

医療法人社団
北原脳神経外科病院
ISO9001:2000 認証取得

■外　来　時　間
平日・土曜／午前８時３０分～１２時３０分
午後２時００分～４時３０分
日曜・祭日／休診
※急患は２４時間受付致します。
お気軽にお電話下さい。

救急・手術から在宅・リハビリまで　一貫した医療の提供
平成１９年４月　循環器センターオープン！

〒１９２-００４５ 東京都八王子市大和田町１-７-２３
Tel. ０４２６－４５－１１１０ Fax. ０４２６－４５－１１４０　ホームページ http://www.kitaharahosp.com
※交通案内　ＪＲ中央線八王子駅北口・京王線京王八王子駅より、京王バス「豊田駅北口駅行」または「日野駅行」にて約１０分『大和田２丁目』で下車、徒歩３分（バス停に当院までの案内図あり）

協会トップニュース

２００７年の新たな活動に向けて ～第２回役員会開催～

東京／１月１８日・・・協会関連

役員のほぼ全員がご参加くださいました

２００７年１月１８日（木）、株式会社・技術評論社内会議室をお借りして、今年度第二回役員会を開催いたしました。今回の議題は、

（１）２００６年１２月までの活動報告・現在の会員数報告
（２）２００７年１月～１２月の活動計画
（３）事務局移転のお知らせ
（４）認定ＮＰＯ申請関連の続報
（５）協会会員実態把握調査アンケート

以上の五点です。

協会の役員会には毎回、ほぼ全員がご出席くださいますが、今回も当日、お忙しい中多くの役員が駆けつけてくださいました。主に２００７年の協会運営計画についてや、今後協会の活動をどのように飛躍させてゆくかなど、様々な意見を交わし合いました。

役員会、また役員会後の懇親会では片岡巌顧問に場所の手配をしていただきました。いつも協会の活動にご尽力くださり、ありがとうございます。役員の皆さま、お忙しい中、ありがとうございました。

【役員会からの出席者（順不同）】
初鹿野恵蘭理事長、杉谷隆志専務理事、遠藤功理事、大鷲修平理事、桂正徳理事、唐澤英安理事、中村有里子理事、初鹿野薫理事、佃純誠監事、事務局（七田・狩野）
【懇親会からの出席者（順不同）】村松健児監事、片岡巌顧問

国際協力活動ワークショップ 違う視点を持つ団体との新たな連携を模索

東京／２月８・９日・・・文化交流

学ぶべき点の多い充実の２日間でした

２００７年２月８日、９日の２日間、（財）自治体国際化協会主催で「国際協力活動ステップアップ・ワークショップ」が開催され、東京本部より狩野が参加してまいりました。

（財）自治体国際化協会は、阪神・淡路大震災の折、自治体よりも早くＮＧＯ、ＮＰＯ団体が支援を行ったという事実を教訓に、両者が連携することでより効果的な活動ができるよう模索することを目的に、毎年、このワークショップを開催しています。協会にとっては二度目の参加となる今年も、大きな実績を持つ講師陣による講義、各参加者が一体となって議論するグループ討議が行われました。

講義の中で印象深かったのは、放置自転車問題を抱える自治体と、自転車を必要としている国へ自転車輸送支援を行っているＮＧＯとが協力体制を築いた事例です。こういった地方自治体とＮＧＯの連携はまだ珍しく、今後、国際協力を続けてゆく上で積極的に模索してゆくべき課題です。

ＮＰＯという枠組みを越え、違う視点・考えを持つ団体と連携をとり、意見交換や活動をすることの大切さ、それを感じた２日間でした。

ＮＰＯの本質である「市民が主体となって社会貢献を行なう」を実行するためにも、当協会はワークショップでの経験、今回得た他団体との関係を生かし、より地域に根付いた団体との連携を深めてゆきたいと思います。

新春恒例！雲南餃子パーティを開催

東京／１月６日・・・文化交流

大家族のような協会会員たちです

２００７年１月６日（土）、東京八王子にある当協会・初鹿野恵蘭理事長の自宅にて、八王子在住の会員や協会役員、馴染みの方々を招いて、毎年恒例の新春餃子パーティを開催しました。

会員の羅ケイ明さん、初鹿野道子さんが昼過ぎから準備に取り掛かり、１５種類もの美味しい雲南料理や中国料理を作ってくれました。テーブルの上には彩りも鮮やかな料理が並び、皆さん大喜び。美味しい料理に舌鼓を打ちながら、話も大いに盛り上がり、新春に相応しい席となりました。毎年の新春餃子パーティは今年で六年目。本場の雲南料理を楽しみながら、皆さんと家族のように楽しく交流できることは何よりもの喜びです。

【ご参加くださった皆さん（敬称略）】桂正徳、鈴木肇、東郷浩、中村有里子、中川隆子、初鹿野薫、初鹿野仁、初鹿野道子、藤田文彦、峰尾勝美、峰尾洋子、羅ケイ明、寺内まさお、寺内恵美子、初鹿野恵蘭理事長、七田怜

【当日のメニュー】知っている料理はありますか？
１、恵蘭餃子（北方の水餃子、南方の焼餃子）２、辣子鶏　３、煎鶏塊　４、炸鶏
５、芹菜炒イカ　６、豆鼓卷心菜　７、麻婆豆腐　８、土豆条　９、青蛙抱玉桂
10、炒菠菜　11、炒青菜　12、花生　13、回鍋肉　14、雲南炒高菜　15、道子サラダ

雲南との新たな産業交流の可能性を探る

東京／（２００６年）１２月２０日・・・文化交流

日本産業の発展の背景についての話も

２００６年１２月２０日（水）、中国雲南省から協会の招聘により雲南省農産業輸出視察団のご一行が来日しました。

一行は、雲南コーヒーやダッタン蕎麦、プーアル茶などの関連企業の責任者で構成されており、日本や日本産業について初鹿野理事長と議論を交わしあいました。

また協会顧問であり支援者でもある（株）技術評論社の片岡巌社長のもとを表敬訪問し、視察団の代表者は「日本の皆さんは、科学技術・教育・農業技術・医療など様々な面で、雲南省へ貢献をしてくれていて大変感謝しています。雲南の発展は、日本の皆さんの力を借りてこそ出来たことだと思っています」と述べました。

今後、日本と雲南省の間でもっと盛んな産業交流が行われることを願って、協会もまた尽力してゆきたいと思います。

雲南好きが集結！雲南懇話会合同新年会

東京／１月１２日・・・文化交流

いつも温かく迎えてくれる雲南懇話会の皆さん

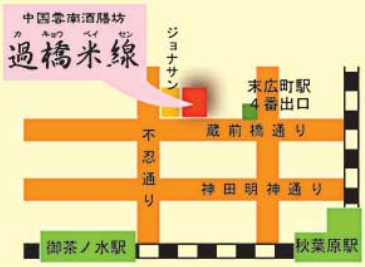
２００７年１月１２日（金）、都内にて雲南懇話会と協会との合同新年会が開催され、初鹿野理事長と事務局の七田が参加してまいりました。

雲南懇話会会長の安仁屋政武さんは当協会の会員で、そのご縁で当協会と懇話会は「雲南」という共通項を通し親しくお付き合いをさせていただいています。事務局長の前田栄三さんはじめ会の皆さんの多くは京都大学山岳部ＯＢで、様々な分野で活躍する素晴らしい人材ばかりです。

今後、ますます関係を深め、２つの会が共に協力し発展することを願って新年会は終了しました。ご参加くださった皆さん、ありがとうございました。

本場の雲南料理、ここにあり！！
中国雲南酒膳坊
過橋米線（カキョウベイセン）
電話　：０３－３８３５－７５２０
営業時間：昼 11:30 ～ 14:30　夜 17:00 ～ 23:30
過橋米線は、日本・雲南聯誼協会の活動を応援しています。

彩雲の南読者限定！
特別クーポン券
１０％ＯＦＦ
※1回1枚限り
※1組様1枚でOKです
※ランチ利用不可
※カードとの併用不可
※会計時にご提示ください
※1組5000円以上ご利用のお客様に限ります
有効期限２００７/８/３１



所在地：東京都千代田区外神田６-５-１ＭＯＡビル１Ｆ
アクセス：地下鉄銀座線末広町駅　４番出口徒歩１分